

【目次】

1. 杉浦秀典氏を招き友愛会創立記念労働講座「賀川豊彦と友愛会」を開催、8月1日！
2. 「友愛会創立を記念する会」（高木剛会長）が記念式典・記念パーティーを開催、8月1日！
3. 連載「日本労働会館物語」第67回—労働運動家・賀川豊彦 その2—

1. 杉浦秀典氏を招き友愛会創立記念労働講座「賀川豊彦と友愛会」を開催、8月1日！



友愛労働歴史館は8月1日（火）10：30より当館研修室において、友愛会創立記念労働講座を開催いたしました。これは同日午後から予定されている「友愛会創立を記念する会」（高木剛会長）の記念式典に連動したものであり、また開催中の企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」（2017.7.6～12.22）に合わせたものでした。

講演者は賀川豊彦記念松沢資料館の杉浦秀典氏（同館副館長、同学芸員）、テーマ「賀川豊彦と友愛会」で、「友愛会創立を記念する会」構成組織の組合員や同会個人会員、さらに当歴史館関係者など47名が参加しました。

2017年はキリスト教伝道者・社会運動家として知られる賀川豊彦が友愛会に参加し、神戸を中心に活動をスタートしてから100年の節目の年。杉浦秀典氏はパワーポイントを活用しつつ、明治末期の救貧事業から講演をスタートし、賀川豊彦と神戸のスラム、賀川と友愛会・労働運動との関係、友愛会に大きな影響を与えた「賀川イズム（自由組合主義、漸進主義、合法主義、非暴力主義、人格中心主義、産業民主主義）」、賀川が指導した1921（大正10）年の川崎・三菱大争議（神戸市）などについて、約70分にわたって講演を行いました。



なお、同日正午より友愛会館9階で「友愛会創立を記念する会」主催の記念式典・記念パーティーが開催され、本労働講座に参加した多くのメンバーが引き続き参加しました。

2. 「友愛会創立を記念する会」（高木剛会長）が記念式典・記念パーティーを開催、8月1日！

「友愛会創立を記念する会」（高木剛会長）は、「日本労働運動の出発点、そして民主的労働運動の源流ともいふべき友愛会創立の意義を顕彰し、会員相互の親睦と労働運動の発展に資するための活動」を行っている団体。その「友愛会創立を記念する会」主催による2017年の友愛会創立105周年を祝う記念式典が、8月1日12：00から友愛会館9階大会議室で開催されました。記念式典には「記念する会」構成組織の組合員や、同会個人会員など約130名が出席しました。



高木剛会長（元連合会長、元UAゼンセン会長）の主催者代表挨拶の後、連合の逢見直人事務局長、民社協会の川合孝典専務理事、そして政策研究フォーラムの谷藤悦史理事長が、それぞれ祝辞を述べました。その後、参加者は105年前の友愛会創立の意義を想いつつ、懇親・懇談の時間を過ごしました。なお、今年の記念式典には友愛会創立者の一人、梶井與雄のゆかりの人も参加しました。

3. 連載「日本労働会館物語」第 67 回—労働運動家・賀川豊彦 その 2—



今回の連載は「賀川イズム」です。賀川豊彦は若き日、神戸のスラムに身を投じて貧しい人々の救済に専念しました。壮年時代には、労働組合運動、農民運動、協同組合運動、無産政党樹立運動に献身し、関東大震災が発生するや、東京にて、罹災者救済やセルツメント事業に力を尽くしました。また、生涯を通じて日本と世界にキリスト教の伝道を行い、戦後は伝道と著作のかたわら世界連邦運動を提唱、指導しました。これらの諸活動を継続する間に宗教、哲学、経済、社会、文明批評、随筆、小説等賀川全集 24 巻にわたる作品を発表し、死後に遺しました。

彼の事業は関西、関東を始め全国に亘り数多くの同志を組織して行われ、その運動は広範な規模において展開されました（賀川豊彦パンフより）。戦後まもなく賀川豊彦が創立した農村時計製作所は、後にリズム時計工業㈱へ発展し、今日に至っています。

労働運動家としての賀川豊彦の歩みは、1917（大正 6）年にアメリカ留学から帰国し、その年の秋に神戸で友愛会の活動に参加することからスタートしています。賀川は 1920（大正 9）年に関西労働同盟会を結成するなど組織・活動面で大活躍。一方、理論面でも当時の労働運動をリードしました。彼の労働運動理論は「賀川イズム」と呼ばれ、友愛会の中に広まっていきました。

「賀川イズム」は「生存権、労働権、人格権」を基本にしたもので、杉浦秀典氏（賀川豊彦記念松沢資料館副館長）によれば、それは「自由労働組合主義、漸進主義、合法主義（階級闘争否定・議会肯定）、非暴力主義（無抵抗主義）、人格中心主義（労働非商品の原則）、産業民主主義（工場委員制）」を柱としたもので、当時の関西労働運動で大きな影響力を發揮します。



ところで賀川豊彦が活躍した 1917～1921 年は、サンジカリズムや共産主義の影響による友愛会急進化の時期で、特に関東労働同盟会は大きな影響を受けていました。このため関西労働同盟会の「賀川イズム」と鋭く対峙することになります。そして 1921（大正 10）年に神戸で起きた労働運動史上空前の川崎・三菱両造船所争議の敗北は、「賀川イズム」の凋落を招き、彼の影響力は失われていきました。しかし、それは「表面の敗北であり、労働者が階級意識にめざめたこと、運動の真理を社会に諒解せしめ」（賀川豊彦）たのです。また、本争議から労働者・労働組合は、多くの教訓（工場管理宣言、他）を学び、後の総同盟の現実主義労働運動に結実します。さらに争議で解雇された労働者は全国で新たな労働運動に取り組みました。例えば井堀繁雄は、川崎造船を解雇された後に東京鉄工組合川口支部長となり、労働運動や生協運動で活躍します。

「賀川イズム」は総同盟の「健全なる労働組合主義」に引き継がれ、今日の自由で民主的な労働運動の背骨（はいこつ）となっているのです

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuaireoderekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuaireoderekishikan.com>

権一館から 123 年、友愛会から 105 年